

令和 4 年 5 月 25 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K12060

研究課題名(和文)臨床実習終了時医療面接OSCEのルーブリック評価システムの開発

研究課題名(英文)Development of a Rubric Evaluation System for The Medical Interview OSCE at The End of Clinical Practice

研究代表者

伊藤 孝訓 (ITO, Takanori)

日本大学・松戸歯学部・客員教授

研究者番号：50176343

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：医療面接は診断を行うための情報の収集に加え、患者教育と治療への動機づけを促し、患者との信頼関係の構築をめざす面接スキルであり、歯科医療人として備えておくべき必須の能力である。しかし、会話行動はこれまで医学・歯学教育では軽視されてきた。そこで、「医療面接」について、アンケート調査による教育実態を明らかにした上で、連携研究者らと、学習の学びについて議論を重ね、段階的な振り返りに基づいたルーブリックの作成を行った。医療面接の教育を行うには、登院前、臨床実習終了時、臨床研修医修了時の医療面接アウトカムの明示が重要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医療面接について卒前教育の実態がアンケートにより明らかになった。OSCEにより行動科学的な視点での学びの重要性が大きく変化してきているが、まだ教育機関により教育内容に対する捉え方に違いがみられ、その幅は大きいことがわかった。教育の方略としては、各マイルストーンでの評価基準、評価シート、そしてマニュアルを作成し、学修者自らが到達レベルを可視化できるようにすることで、自己の成長が省察できる学修システムは重要な役割を担うと考える。さらに、国民が期待する患者中心の医療を現場で実践する医療面接の教育システムの開発は、安全な医療の提供においても社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：In addition to gathering information for diagnosis, medical interviewing is an interviewing skill that aims to educate and motivate the patient and build trust with the patient. This is an essential skill for dental professionals. However, conversational behavior has been neglected in medical and dental education.

Therefore, after clarifying the actual educational status of "medical interviewing" through a questionnaire survey, we discussed the learning process with collaborating researchers and developed a rubric based on step-by-step reflections. In order to provide education on medical interviewing, it is important to clearly state medical interviewing outcomes prior to admission, at the end of clinical practice, and at the end of clinical residency.

研究分野：医療行動科学

キーワード：医療面接 患者 医療者関係 医療コミュニケーション 医療行動科学 ルーブリック

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

医療面接は、診断情報の収集のみならず、患者との信頼関係を構築し、さらに患者自身の治療に対する動機づけを促す行動科学的スキルであり、歯科医療人として備えておくべき必須の能力(コンピテンス)の一つである。OSCEに課題として組み込まれ、歯科界においても周知されるようになった。しかし、歯科で重視されるテクニカルなスキルでなく、情意領域の能力であるために、その教育は一筋縄では行かず、教育内容や方法に関して教育現場では教授法について、苦慮しているのが現状である。

そこで本研究は、登院前、臨床実習終了時、臨床研修医修了時、そして一般歯科医の医療面接アウトカム¹⁾を明示し、修得すべきコンピテンシーを段階的に明示することは必須の課題であり、学習者にわかりにくいノンテクニカル・スキルが示されれば、しいては医療現場でよりよい患者-医療者関係が確立できると考える。

2. 研究の目的

医療面接は、臨床実習に必須な能力であると認識され、平成13年から学生が臨床実習に入る前にOSCEの受験項目として挙げられている。当初、OSCEトライアル時期には研究報告も多くみられていたが、施行されてからは運営にかかわる改善等の報告のみで、評価等に関する研究は制限されたために報告はみられない。わが国は、世界に比べて歯科医師国家試験に実技試験がなく、世界的には稀有な状態となっている。これらのことから、国民に対して歯科医療の質保証を説明するためにも、登院前OSCEに連動した臨床実習終了時OSCEを実施することが、歯科医療の質の担保になると思われる。

医療面接において登院前、臨床実習終了時、臨床研修修了時、そして一般歯科医の各段階での評価基準とマニュアルを作成し具体的な到達目標を明示することが重要である。そこで、学修者自らが到達レベルがみえるループリック²⁾を提示することで、自己の成長が感じ取れる学修システムを開発する。

3. 研究の方法

(1) 医療面接の教育に関するアンケート調査

教育機関の評価等で実施されている医療面接の教育内容について把握する必要がある。これまでに研修等で知り得た研究者ネットワークを使い、資料の収集や意見集約(アンケートも含む)を行い、共通点や異なる点を抽出し、評価シート、評価マニュアル等の作成のデータとする。アンケート協力を得たのは、北海道医療大学、北海道大学、東北大学、奥羽大学、日本大学松戸、東京歯科大学、明海大学、神奈川歯科大学、新潟大学、日本歯科大学新潟、愛知学院大学、朝日大学、岡山大学、徳島大学、九州大学、福岡歯科大学、長崎大学の17校である。

(2) 医療面接のループリック

医療面接教育における卒前教育と卒業後の歯科医師のアウトカムに至るまでの学習のロードマップと各段階のコンピテンシーについて整理し、具体的なものとするためのループリック(段階的なマイルストーン、アウトカムを意識した評価目標)となる評価規準を作成する。

4. 研究成果

(1) 医療面接の教育に関するアンケート調査

「医療面接」に関しては、OSCEの関係で全ての大学で教育されているが、OSCE対応教育程度の大学も散見され、内容の深さや時間に大きな差がある。コミュニケーションの基礎から医療面接教育の臨床場面までも重視し、段階的に行っている大学も多くなっていることが、アンケート調査で明らかになった。医療面接の教育は、講義科目と具体的な実習内容(ロールプレイ、模擬患者セッション、ビデオ供覧など)が組み込まれ、各大学特色ある名称と方策がとられていた。講義・実習の時間数は平均約35時間が充当されていた。実際の行動としてパフォーマンスできることに繋がる教育方略に視点がおかれた教授法となっていたが、その教育内容の幅は大きかった。医療面接の教育内容は、下記の表(問4)にまとめる。各大学ともに学年ごとに学ぶ知識は、コミュニケーションスキルの基礎、患者-医療者関係、患者心理等は低学年で実施され、次いで医療に直接関連する内容が教育されている。4年次から5年次においては、より具体的演習が行われ、パフォーマンスできるように教育は組み立てられていた。

問4 貴学で、医療面接に関する教育内容のうち、以下の項目は主にどの時期に教育されていますか？各学年とも4～9月を前半、10～3月を後半として、下の表に○を記入してください。（いくつでも）教えていない場合には、教育なしに○を記入してください。															
	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	5年 前期	5年 後期	6年 前期	6年 後期	総計	教育 なし	
1 身だしなみ	6	4	4	2	5	4	5	14	13	9	6	4	76	0	
2 受容、共感的態度	4	3	3	2	5	4	5	13	13	8	6	4	70	0	
3 傾聴スキル（あいずち、促進等）	3	4	3	2	5	4	5	13	13	8	6	4	70	0	
4 質問法（開いた質問、閉じた質問等）	4	3	3	2	4	4	5	12	13	8	6	4	68	0	
5 言語コミュニケーション	3	4	4	2	4	4	5	12	13	8	6	4	69	0	
6 非言語コミュニケーション	3	4	4	2	4	4	5	12	13	8	6	4	69	0	
7 心理、社会的背景	3	0	3	2	5	4	4	12	14	8	5	4	64	0	
8 歯科疾患の症状	0	0	1	0	4	4	4	12	13	9	5	3	55	0	
9 痛みや不安による感情への対応	2	0	1	3	5	4	4	12	14	9	5	4	63	0	
10 病気解釈モデル、受診の動機	0	0	1	2	4	4	4	12	14	9	5	4	59	0	
11 医療面接の流れ・進め方	0	0	1	2	4	3	5	12	14	10	6	4	61	0	
12 口腔内外の診察・検査	2	0	0	0	4	2	5	11	12	10	6	5	57	0	
13 臨床診断	0	0	0	0	2	2	5	10	10	10	6	4	49	0	
14 患者－歯科医師関係	3	0	2	2	7	4	7	12	13	10	6	4	70	0	
15 患者心理	3	0	1	2	7	4	7	12	13	10	6	4	69	0	
16 患者教育、指導	0	1	1	1	5	5	6	12	12	10	6	3	62	0	
17 動機付け、行動変容	0	1	1	1	4	5	5	12	11	10	6	3	59	1	
18 患者の価値観	0	0	1	1	4	5	6	11	12	9	6	4	59	1	
総計	36	24	34	28	82	70	92	216	230	163	104	70	1149	2	

医療面接に関連が深い他科目の教育内容は、下記の表（問6）にまとめる。各大学ともに学年ごとに学ぶ知識は、順次制をもって到達目標は掲示されている傾向がみられる。IC、プロフェッショナルリズム、医療倫理、チーム医療、多職種連携等は低学年時に教授されている。次いで、POMR、EBM、コーチング、臨床疫学等がみられ、4年次からは臨床に直接関連する内容につながるような教育内容となっていた。医療面接にかかわる学問は広く、学年が上がるに連れて知識の統合をうまく行えるような螺旋型教育を行うことで、臨床場面へ向けて、より実践的な知識の整理修得ができると考える。そのためには、学年が上がるに連れて一貫性のある教育内容としなければならない。

問6 貴学では、医療面接との関連が深い教育内容のうち、以下の項目は主にどの時期に教育されていますか？ 各学年とも4～9月を前半、10～3月を後半として、下の表に○を記入してください。（いくつでも） 教えていない場合には、教育なしに○を記入してください。															総計	教育なし
	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	5年 前期	5年 後期	6年 前期	6年 後期				
1 インフォームド・コンセント	5	4	4	3	2	5	7	13	9	9	6	4	71	0		
2 プロフェッショナルリズム	7	3	2	2	2	4	2	7	6	5	4	2	46	0		
3 対人コミュニケーション	5	5	3	2	4	5	3	12	10	9	5	4	67	0		
4 チーム医療	7	2	3	3	3	4	5	9	7	9	6	3	61	0		
5 わが国の歯科事情、歯科医療	6	3	2	3	4	5	4	7	3	3	3	2	45	0		
6 多職種連携	6	0	2	2	3	5	5	8	9	10	6	3	59	0		
7 患者中心の医療	5	3	4	2	3	5	6	12	9	9	7	5	70	0		
8 医療安全管理	2	0	3	3	1	4	5	7	10	7	6	3	51	0		
9 医療倫理、生命倫理	6	3	5	3	2	4	3	7	7	5	5	2	52	0		
10 問題志向型診療記録<POMR>	1	1	3	1	3	3	2	11	7	9	8	6	55	0		
11 治療計画立案	0	0	2	1	2	3	5	8	13	13	10	5	62	0		
12 診療用ユニットの使い方	1	1	0	0	1	2	2	7	13	11	5	2	45	0		
13 コーチング、指導の仕方	0	3	2	3	3	2	4	5	5	5	2	2	36	0		
14 行動変容、ステージモデル	0	3	2	3	4	1	3	3	3	3	2	2	29	0		
15 EBM、NBM	1	2	4	2	4	4	4	4	5	4	5	4	43	0		
16 臨床疫学（事前確率、感度特異度）	1	1	3	3	4	4	4	3	2	2	5	3	35	0		
17 死生学	2	2	3	2	0	0	2	1	3	1	2	0	18	0		
総計	55	36	47	38	45	60	66	124	121	114	87	52	845	0		

アンケートの回収は17大学で終了したが、フィールドワークを主体とするこのような研究、それに続くフォーカスインタビュー調査がコロナの影響により実施できなかったことは残念である。医療面接は単なる面接スキルの羅列ではなく、背景となる現在の患者中心の医療がどの程度教育に含まれているか、コミュニケーションスキルが患者と医療者の異文化的背景に基づいてどのレベルまで教育に含まれているか、患者の心理を理解するためにどの程度教育に含まれているか、面接の評価項目の段階的な学修の学びの構造化をしっかりと検討し、より緻密に関連する知識の構築が重要と考える。

(2) 医療面接のルーブリック

医療面接の3つの目的について、ルーブリックの作成を試みた。各教育機関関係者の協力を仰ぎ、各ステージ修了時 OSCE に用いる医療面接の評価についてまとめた。そこで、今回、医療面接教育における卒前教育と卒業後の歯科医師のアウトカムに至るまでの学習のロードマップと各段階のコンピテンシーについて整理し、具体的なものとするためのルーブリックとなる評価規準・基準を紹介する。医療面接の3つの目的(人間関係、診断推論、患者教育)の評価と、素養教育(1・2年)、歯学専門教育(3・4年)、臨床実習(5・6年)、初期研修(7年)そして専門研修(8年以降)の段階的コンピテンシーを一覧にまとめた。

まだ、教育現場では、目標基盤型のSBOsの羅列のみであり、段階的なマイルストーン、アウトカムを意識した評価目標を提示した教育の実現はまだ少ない。学習者の振り返りをうまくするには必須な事項である。

履修プログラム	【評価基準】	グループ			【評価基準】			グループ			【評価基準】			グループ		
		1. 人間関係	2. 診断	3. 患者教育	1. 人間関係	2. 診断	3. 患者教育	1. 人間関係	2. 診断	3. 患者教育	1. 人間関係	2. 診断	3. 患者教育			
<p>【評価基準】</p> <p>1. 人間関係</p> <p>2. 診断</p> <p>3. 患者教育</p>																
<p>【評価基準】</p> <p>1. 人間関係</p> <p>2. 診断</p> <p>3. 患者教育</p>																

今後は、評価シート、評価マニュアルについて、本領域の専門家にも協力を仰ぎ、段階的な評価の完成を目指す。そして、ベテラン評価者による評価のブラッシュアップを行い、新たな成長に関する知見を見いだすつもりである。そして、学生が理解しやすい歯科医療行動科学のカリキュラムマップを作成し、医療面接のキャプチャーストーンに到達できるような学修レベル毎のマイルストーンを明示するのが重要である。

< 引用文献 >

- 飯島克己、佐々木将人：『メディカル・サイエンス・インターナショナル社（東京）』『メディカルインタビュー 三つの機能モデルによるアプローチ』2003、第2版
- 佐藤浩章監訳、井上敏憲、俣野秀典訳：『玉川出版（東京）』『大学教員のためのルーブリック評価入門』2015、初版

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 大沢聖子, 多田充裕, 内田貴之, 青木伸一郎, 岡本康裕, 遠藤弘康, 梶本真澄, 桃原 直, 岩橋 諒, 吉野亜州香, 伊藤孝訓	4. 巻 47
2. 論文標題 歯科学生自身による患者付き添い実習の自己評価に影響を及ぼす要因 - ソーシャルスキル, 自己効力感, 共感の影響 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日大口腔科学	6. 最初と最後の頁 161-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大沢聖子, 多田充裕, 内田貴之, 青木伸一郎, 岡本康裕, 遠藤弘康, 梶本真澄, 桃原 直, 岩橋 諒, 吉野亜州香, 伊藤孝訓	4. 巻 47
2. 論文標題 患者付き添い実習における歯科学生と患者との「関係開始」に影響を及ぼす要因について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日大口腔科学	6. 最初と最後の頁 45-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤孝訓, 大山 篤, 多田充裕, 木尾哲朗, 吉田登志子, 鈴木一吉, 青木伸一郎, 大沢聖子, 俣木志朗, 小川哲次	4. 巻 35
2. 論文標題 歯学における「医療行動科学」の体系化を目指した全国歯科大学・歯学部シラバスの分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本歯科医学教育学会誌	6. 最初と最後の頁 100-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroya Gotouda, Kazutaka Kasai, Yasuhiro Okamoto, Seiko Osawa, Hiroyasu Endo, Shinichiro Aoki, Mitsuhiro Ohta, Michiharu Shimosaka, Takanori Ito	4. 巻 17
2. 論文標題 Evaluation and Correlation between Multisource Feedback and Objective Structured Clinical Examination for Trainee Dentists in Clinical Performance Assessment	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Oral Health And Dental Manegement	6. 最初と最後の頁 106-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroya Gotouda, Kazutaka Kasai, Yasuhiro Okamoto, Seiko Osawa, Mitsuhiro Ohta, Chieko Taguchi, Michiharu Shimosaka, Shinichiro Aoki, Takanori Ito	4. 巻 17
2. 論文標題 Multisource Feedback of Work Place-Based Assessment in Dental Postgraduate Clinical Training	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Oral Health And Dental Management	6. 最初と最後の頁 94-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大沢聖子, 多田充裕, 内田貴之, 青木伸一郎, 岡本康裕, 梶本真澄, 大山 篤, 伊藤孝訓	4. 巻 34
2. 論文標題 患者付き添い実習における学生自身による同意取得の教育効果	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本歯科医学教育学会雑誌	6. 最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤孝訓	4. 巻 10
2. 論文標題 これからの歯科医療に求められる共感的・全人的医療の実践-臨床の基本的技能としての歯科医療面接-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本総合歯科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 5-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤孝訓	4. 巻 9巻1号
2. 論文標題 総合歯科医の具有すべきコンピテンシー -価値観に基づく診療 (values-based practice: VBP) -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本総合歯科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 8-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大沢聖子, 多田充裕, 内田貴之, 青木伸一郎, 岡本康裕, 遠藤弘康, 梶本真澄, 桃原 直, 岩橋 諒, 吉野亜州香, 伊藤孝訓
2. 発表標題 歯科学生と患者との「関係開始」に影響を及ぼす要因について
3. 学会等名 第20回日本大学口腔科学会学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大沢聖子, 多田充裕, 内田貴之, 青木伸一郎, 岡本康裕, 梶本真澄, 大山 篤, 伊藤孝訓
2. 発表標題 歯科学生自身による患者付き添い実習の自己評価に影響を及ぼす要因
3. 学会等名 第39回日本歯科医学教育学会および学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大山 篤, 青木伸一郎, 多田充裕, 大沢聖子, 伊藤孝訓
2. 発表標題 我が国の歯学部における行動科学教育の特徴とその背景
3. 学会等名 第39回日本歯科医学教育学会および学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤孝訓, 多田充裕, 大沢聖子, 青木伸一郎, 内田貴之, 岡本康裕, 遠藤弘康, 梶本真澄, 桃原 直, 岩橋 諒, 吉野亜州香, 大山 篤
2. 発表標題 本学歯学における基礎・臨床に継ぐ行動科学系学問の分析
3. 学会等名 第19回日本大学口腔科学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤孝訓, 大山 篤, 大沢聖子, 多田充裕, 青木伸一郎, 木尾哲朗, 吉田登志子, 鈴木一吉, 俣木志朗, 小川哲次
2. 発表標題 歯学における「医療行動科学」の体系化を目指した調査研究 - 第1報 シラバス調査 -
3. 学会等名 第38回日本歯科医学教育学会および学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 多田充裕, 伊藤孝訓, 大山 篤, 大沢聖子, 青木伸一郎, 木尾哲朗, 吉田登志子, 鈴木一吉, 俣木志朗, 小川哲次
2. 発表標題 歯学における「医療行動科学」の体系化を目指した調査研究 - 第2報 キーワード調査 -
3. 学会等名 第38回日本歯科医学教育学会および学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大山 篤, 多田充裕, 青木伸一郎, 大沢聖子, 伊藤孝訓
2. 発表標題 歯科領域における行動科学研究に関する文献調査
3. 学会等名 第37回日本歯科医学教育学会総会および学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大沢聖子, 多田充裕, 内田貴之, 青木伸一郎, 岡本康裕, 遠藤弘康, 梶本真澄, 桃原 直, 岩橋 諒, 吉野亜州香, 伊藤孝訓
2. 発表標題 者付き添い実習におけるSignificant Event Analysis (SEA)を用いた振り返りの検討
3. 学会等名 第18回日本大学口腔科学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 梶本真澄, 青木伸一郎, 内田貴之, 海老原智康, 黒澤仁美, 桃原 直, 岩橋 諒, 大高史郎, 大山和次, 吉澤泰彦, 伊藤孝訓
2. 発表標題 歯科学生が行う医療面接に患者が抱く心証
3. 学会等名 第10回 日本総合歯科学会 学術大会・総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 桃原 直, 多田充裕, 海老原智康, 岩橋 諒, 吉野亜州香, 伊藤孝訓
2. 発表標題 経験的知識を学習した歯科学生の診断推論プロセスの検討
3. 学会等名 第10回 日本総合歯科学会 学術大会・総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 桃原 直, 海老原智康, 遠藤弘康, 梶本真澄, 黒澤仁美, 大沢聖子, 多田充裕, 伊藤孝訓
2. 発表標題 仮説演繹法による学習で見られた歯科学生の診断プロセスの違い
3. 学会等名 第27回日本内科学会・第30回日本口腔診断学会合同学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 須永 肇, 内田貴之, 岩橋 諒, 吉野亜州香, 岡本康裕, 青木伸一郎, 伊藤孝訓
2. 発表標題 歯科大学付属病院初診科における紹介患者の特徴
3. 学会等名 第27回日本内科学会・第30回日本口腔診断学会合同学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大沢聖子, 多田充裕, 内田貴之, 青木伸一郎, 岡本康裕, 梶本真澄, 大山 篤, 伊藤孝訓
2. 発表標題 患者付き添い実習における同意取得者の違いによる検討
3. 学会等名 第36回日本歯科医学教育学会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大山 篤, 多田充裕, 青木伸一郎, 伊藤孝訓
2. 発表標題 本邦の歯学部医療面接教育に関するシラバス調査
3. 学会等名 第36回日本歯科医学教育学会学術大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 伊藤孝訓編著, 鈴木一吉, 廣藤卓雄, 森 啓, 長谷川篤司著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 砂書房	5. 総ページ数 334
3. 書名 歯科医療面接 アートとサイエンス 第3版	

1. 著者名 岸 太一, 藤野秀美編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 235
3. 書名 保健と健康の心理学 標準テキスト第6巻 健康・医療心理学 「第8章 口腔衛生」担当	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大沢 聖子 (OSAWA Seiko) (00152108)	日本大学・松戸歯学部・助教 (32665)	
研究分担者	多田 充裕 (OHTA Mitsuhiro) (30260970)	日本大学・松戸歯学部・准教授 (32665)	
研究分担者	後藤田 宏也 (GOTOUDA Hiroya) (20307870)	日本大学・松戸歯学部・准教授 (32665)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関